2011年度敬和学園大学教員免許状更新講習概要

講習名　「文化と経済の変化から投影した現代社会への理解」

講師：神田 より子（敬和学園大学人文学部教授）

１　日本の中の異文化理解

異文化理解とはどういうことか。文化人類学の立場から、異文化理解について考えてみたい。私たち人間は自分とは違う他者に対して、どのような視点を持てるのだろうか。他者との比較を通して、自分の見方が『正しい』と言えるのだろうか。また自分の正しい見方を他者に押し付けてはいないだろうか。人が生きてゆくうえで何を正しいとするのかを考えてゆきたい。

現代社会では、異文化理解が不可欠と言われている。しかし、なかなか目に付きにくいのが、日本の中での異文化理解である。今回は見えにくい存在となっている在日コレアンの問題、海外から働きに来ている外国人の子弟や、国際結婚による子弟の教育など、特に学校現場では潜在的な事柄としてありながら、顕在化しづらい問題でもある。これらを取り上げて、議論してみたい。

２　環境と文化

私たち人間は地球上のそれぞれの環境に適応して、それぞれの自然環境、社会環境、技術環境、精神的な環境を発展させてきた。そこでまず人間が生存するために、どのようにして環境に適応してきたのかを、これまでの研究の成果から振り返ってみることにしたい。我々が特定の環境の中で生存するためには、環境を分類し、秩序付けてゆく主観的な認識のプロスが不可欠である。そこで文化人類学の視点から、人々はどのようにしてこれらの環境の分類と秩序付けを行ってきたのかを考えてみたい。

とくに今年は東日本大震災を経て、我々は環境とどのように付き合ってゆくべきなのか、その対処法が求められている。それ故、現代を生きる我々が先人の知恵を生かし、未来の若者に示しうる素材を提示できるのか、議論をしてゆきたい。

講師：房　文慧（敬和学園大学人文学部教授）

中国と日本の経済的相互依存が深まっている。いま日本にとって中国は、米国を抜いて最大の貿易相手国である。また、最近話題になった中国人訪日旅行は、観光立国を国策として掲げる日本に大きな経済効果をもたらすものと期待されている。他方、日本の対中直接投資およびそれに伴う技術移転は中国産業の国際競争力や技術進歩などに大きく寄与するものである。

この講座は、世界経済の枠組みの中で日本と中国との経済的関係の歴史と現実を的確に理解し、両国経済の将来を展望するための基礎知識を身に付けることを目的とする。本講座では、まず、1972 年までの中日間の対立とその後の関係正常化、平和友好条約締結などの経緯を取り上げ戦後中日の国家間関係の展開を説明する。そして、国家間関係

の正常化のうえで、中国と日本の経済関係は飛躍的に発展していくことを明らかにする。中日の経済関係については、資金協力と国際貿易の二つの側面から深まってきた。本講座では、日本政府の対中円借款とその変容、民間企業の対中直接投資、中日間貿易の拡大、および投資と貿易の構造変化などの実態を明らかにする。この講座の計画はつぎの通りである。

1、中国と日本の国家間関係の展開
　(1) 国交正常化前の日中関係
　(2) 国交正常化と平和友好条約の締結
　(3) 日中関係の停滞と回復
2、日本政府の対中開発援助
　(1) 複数年度方式の対中円借款
　(2) 対中円借款の見直し－単年度方式へ
3、日本の対中直接投資
　(1) アメリカ・東アジアから中国へ
　(2) 対中投資の構造変化
4、日中貿易の拡大と構造変化
　(1) 貿易相手国アメリカから中国へ
　(2) 日中貿易の拡大要因
　(3) 日中貿易の構造変化